

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚中学校
(令和6年2月5日作成)

1 学校教育目標 ○学び合う生徒（知） ○思いやる生徒（徳） ○高め合う生徒（体） 校訓「文武両道」	
2 重点目標・努力目標 1 信頼される学校 2 確かな学力の育成 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 5 教育課程の改善	3 前年度の成果と課題 成果 ○個に応じた適切な支援では、外部の方を招いた研修、ヤングケアラーについての外部の方や地域の方を招いた講演により生徒が相談をしやすい環境をつくることにつながった。また、職員のスキルアップにもつながった。 ○どの学年も落ち着いて、授業、部活、委員会や学校行事ができています。各学力調査の結果から、よい成果が出ている ○学校行事では、概ね予定通りに開催ができた。生徒一人ひとりが主体となって企画・立案して、多くの生徒が活躍する場面が見られた。学校行事をとして、学級の雰囲気がよくなど、学校行事のよさを改めて感じた。 課題 ●経験の浅い先生が多くいるため、学級経営や特別活動、道徳等研修の機会を設け個々の指導力の向上、学校としての組織力の向上を図る。信頼される教師となるために今一度、言葉遣いや立ち居振る舞いを見直す。 ●学級経営を基盤として、道徳教育の充実、いじめ防止対策や体験活動を取り入れるなど、生徒一人ひとりの心を育み、居場所や活躍できる環境を作っていく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	<p>○多くの行事は予定通り実施できた。生徒が主体となって企画・運営して活躍する場面も多く、学校全体で協力して取り組めることができた。</p> <p>○大きな行事に各学年から担当を割り当てることで生徒会本部の負担が軽減された。また、担当が責任をもって行事運営に取り組めた。</p> <p>●分掌の負担が以前に比べては改善されたが、一部の職員頼みのところが依然としてある。複数で校務にあたり、全体での周知を徹底する。</p> <p>●会議・研修の時間が多いため、内容を精査して、生徒と関わる時間を確保していく。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	<p>○令和5・6年度の委嘱研究で部会に分け各部の研修等もあり、学校の課題に沿った研修を取り組んだ。</p> <p>●研修の機会が多く、また研究授業もあり一部の先生に負担が偏ってしまった。</p> <p>●委嘱研究の取り組みが各先生方のスキルアップ、それが生徒に還元されるように内容を工夫していく。</p>

③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する生徒への対応等、全体への周知が徹底できていた。 ○今年度についても、学校保健委員会に生徒・保護者が参加をし、学校全体で協議ができた。 ●日々の安全点検や緊急事態発生時の対応について、再度、学校全体で共通理解を図り、学校全体の意識をより高めていきたい。
④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCを工夫して活用ができています。回線による不具合もほとんどない。 ●タブレットPCについて、経年劣化も見られ故障が増えているため、管理をより徹底していく。 ●施設の老朽化や不具合が依然としてある。市教委と連携しながら、修繕を進めていく。
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りなど各種便りやメール配信を通じて、必要な情報を速やかに発信した。また、日程の急な変更についても、速やかにメールや通知文で連絡をすることができた。 ○行動制限もなくなり、学校公開や土曜日授業参観など、保護者や地域が学校の様子を参観できる機会が確保できた。 ○今年度も市民防災訓練では、地域と協力して訓練を実施することができた。 ●保護者や地域との連携の際は家庭や地域の人材活用を検討する進必要がある。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会に分けて研究授業や研修を行うことができた。学級経営を始め多くの研修を行うことができ、特に経験の浅い先生には有意義な研修となった。 ●担当を中心に活動を行ったが、一部の先生に負担が多くなってしまい、全体で取り組む場面が少なかった。学校全体、学校区全体で一貫教育の取組を進める。

(様式2・中学校用②)

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事は、生徒が主体的となって企画・運営する場面が増えた。多くの行事を通して、生徒の成長を感じられる場面があった。 ○学級閉鎖等を除き、授業時数や行事への準備の時間を十分に確保できた。 ○教育活動が各学年、発達段階に合わせて計画され、準備や指導の時間が十分に確保されていた。 ○縦割りの活動を実施したことで、先輩がよいところを後輩に引き継いでいく雰囲気がある。 ●一部の先生に負担が依然としてあるため、行事の進め方については再度、検討の余地がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○OPPシートなど単元を通じた学びを各教科で取り組むなど、生徒がより主体的に考え、学ぶ場面が増えた。 ○ICTの活用について、各教科の特質に応じて効果的に活用できている場面が増えた。 ●校内で先生方の相互に参観する場面があまり確保できていない。時間を確保して、授業力の向上につなげたい。

③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	B	<p>○学年でのローテーション道徳を行うことで、学年のどの先生とも関わりがもてるようになり、学年全体での道徳の意識は高まっている。</p> <p>●各クラスの実態にあった道徳が必要である場合もあるため、臨機応変に対応をしていく。</p>
④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	B	<p>○学級会を各クラス定期的に取り入れるなど、生徒が意見を出し、自治的活動が増えている。</p> <p>●学級会や学級経営について、担任の先生の力量に左右されるため、個々のスキルアップが必要である。</p>
⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○学年の担当を中心に、活動を進め、多くの生徒が主体的に取り組めた。</p> <p>○各学年で外部機関や教材を活用して、生徒の意欲が向上して学びが深まった。</p> <p>●各学年の実態や、指導を継続できるように指導をするために、年間指導計画を見直す必要がある。</p>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○何かがあった際、概ね各学年が組織的かつ迅速に対応ができています。</p> <p>○学校全体で組織的な生徒指導ができています。生徒も落ち着いて学校生活が過ごせている。</p> <p>○配慮を要する生徒、個に応じた適切な支援についても部会を中心として支援策を練り、学校全体で対応ができています。</p> <p>●生徒の指導がより複雑かになってきている。保護者の個々の生徒の様子や保護者の考えを踏まえ、より適切な支援が必要となる。</p> <p>●校則について、今後見直しの余地がある。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<p>○総合的な学習の時間では、各学年で外部の教材を取り入れるなど、生徒の学びを深めさせることができた。</p> <p>●職業体験ができていないなど、キャリアに関する体験的な活動を取り入れたい。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒同士がそれぞれの個性を理解して受け入れあえている雰囲気がある。</p> <p>○適切な支援を継続的に行っている。</p> <p>●各クラスの個別の支援が必要への対応を担当だけでなく、学校として理解・対応していく体制がさらに必要である。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○図書館の利用が授業を始め、学校全体で活発になった。</p> <p>●一部の先生頼みになってしまっているため、継続可能な図書館運営を検討する必要がある。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○タブレットPCを各教科や活動に応じて工夫して活用する場面が日常となっている。</p> <p>○ほとんどの生徒はスライドを活用して自分の意見を発表することができている。</p> <p>●タブレットPCの経年劣化も含め、故障や不具合が多くなってきている。管理について再度、学校で周知・徹底をしていく。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○生徒同士がお互いを尊重して活動する場面が多く見られる。</p> <p>●人権について、教師の学びの機会を確保するなど今まで以上に知る必要がある。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	○個に応じた適切な支援 (不登校対応、教育相談等)	・組織的な支援 ・研修計画 ・学校全体での支援体制の構築	A	○年間指導計画にスキルトレーニングを取り入れ、研修を行うなど学校や学年の実態に合わせた指導ができた。 ○個に応じた支援を教育相談部が中心となって、組織的な支援を関係機関と協力して、支援が継続的に行われている。 ●生徒一人ひとりの実態を把握して、よりよい支援を継続して行うために、日々の生徒の情報交換を密に取っていく。 ●支援が必要な生徒だけでなく、どの生徒の様子や先生方との関わりについても注目して対応するよう心がけていく。
	○学校間連携教育	・校区内小学校との連携、協力 ・近隣の地域の幼保との交流	A	○今年度についても近隣小学校(谷塚小、氷川小)とのあいさつ運動や授業参観、引き取り訓練、1日体験について行うことができた。行事が学校区で定着ができています。 ○3部会の取り組みでは、小中合同研修会や本校における、各部での研究授業や研修を行い、先生方の資質向上につなげることができた。 ●活動全体を通して、多くの先生方の協力できているが、依然として一部の先生方に負担が偏っている面もあるため、学校全体、学校区全体で一貫教育を進めていく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

幼保小中を一貫した教育における研究では、3つの部会に分け各部において指導者を招いての研究授業や研修を行い、学校の実態に沿った指導を頂いた。学級経営やスキルトレーニング等、今後の指導に生かせるものであり、先生方の資質向上につながった。近隣の小学校との交流行事についても予定通り行うことができた。今後も継続をして実施をしていく。

教育活動全般を通して、発達段階に合わせた内容となっていて、準備の時間も十分に確保ができています。学校行事は一部、日程を変更して行った行事もあったが、概ね予定通り開催ができた。行動制限もなく、保護者の参観する機会も確保できた。各行事で、生徒が企画・運営を主体的に取り組み、一人ひとりが達成感を感じるものとなった。生徒会主催の行事では、昼休みの全校のほとんどの生徒が参加するなど、大いに盛り上がりを見せた。縦割りの行事もあり、谷塚中学校のよき伝統を後輩に引き継いでく雰囲気を作られている。生徒が主体的に活動して、活躍する場面を増やしていきたい。

どの学年も、授業・部活・委員会・行事に落ち着いて取り組める雰囲気が作られている。学習面では、県学力学習状況調査、市学力学習状況調査の結果から、県や市の平均を上回る教科が多い。一方で、支援を要する生徒は各クラスに在籍している。継続的、組織的に支援を充実させ、一人ひとりがお互いを尊重する場面をより多く増やしていきたい。本校は経験の浅い先生も多く所属しているため、教科指導や学級経営など先生方の研究を資質向上につなげ、生徒一人ひとりに還元できるようにしていきたい。

6 次年度の改善策

一貫教育における研究では、各部の研究授業や研修を行ったが、一部の先生に負担が偏ってしまった。学校全体、学区全体で取り組むために、担当の人だけに負担がならないように組織的に取り組み、先生方一人ひとりの資質向上につながるようにしていく。

各クラスに配慮を要する生徒が在籍しているため、個に応じた支援を学校として組織的な支援を継続していく。落ち着いた雰囲気で学校生活が過ごせているが、生徒の小さな変化を見逃さず、アンテナを高くして生徒の日々の様子を注視していく。

経験の浅い先生が多く在籍しているため、次年度についても限られた時間ではあるが、研修や相互での授業を参観する機会を確保していき、学校全体の教育力の向上につなげたい。

安全面について、大きな事故は起きていないが依然として施設の老朽化が見られる。日々の安全点検や安全指導を今まで以上に徹底していく。校舎や施設の老朽化については、市教委と相談の上、計画的に進めていく。